

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100069
法人名	(株)ニチイ学館
事業所名	ニチイケアセンター香貫山 グループホームほほえみ
所在地	静岡県沼津市下香貫塩満1830-2
自己評価作成日	平成27年2月27日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://2291100069-00.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&Ji_gyosyoCd=2291100069-00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3-11-43-6
訪問調査日	平成26年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「誠意・誇り・情熱」の社是の下、『やさしさ』をスローガンに掲げ、利用者様はもとより、職員にもやさしいホームを目指しています。日々、明るく楽しく家庭的にお過ごし頂けるように利用者様ひとりひとりの快を意識し支援しています。

また、地域資源を活用するとともに地域の一員として、お祭りや防災訓練、海岸のごみ拾い等に参加し地域の方と顔見知りの関係を築き、住み慣れた地域で安心してお過ごし頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は介護事業を全国展開している株式会社の一員であり、食事のメニューや職員の交流などの支援を受けながら、ご利用者の希望や地域性を生かした独自の取り組みをされています。

拠点のスローガンを「やさしさ」と定め、困っている方がいれば自然にお手伝いをするように、ご利用者に寄り添う介護を目指されています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼・申し送り時に「社是・経営理念・コンプライアンススローガン」を唱和し、また拠点スローガンを『やさしさ』に決定し職員一堂で意識を高め実践している。	スローガンである「やさしさ」につながるのではとの考えから、ご利用者だけでなく職員同士もお互いの個性を認め合い共に生活することを目指されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、回覧板等の案内にある地域行事に積極的に参加している。また近隣の商業施設を利用して交流を深めている。	地域行事として、防災訓練やゴミ拾い、お祭りにご利用者共々参加されています。子供会のお祭りでは、施設が休憩所となり子供たちの踊りの披露などの交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のイベント・見学会の開催など、地域住民に参加を募り、開かれた事業所をめざしている。お散歩などを通じて交流したり、近隣の方へのあいさつなどを大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の最終金曜日に、定期的開催している。事業所の報告の他、地域関係者様やご家族様のご意見を伺い、サービス向上に活かしている。	開催日や時間を変更することで幅広い層からの参加がしやすい環境を作り、さらに会議に地区交番の担当者をメンバーに加えることを検討するなど、施設が地域に周知される仕組みとして会議を活用されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所に会議の議事録を提出し、報告や相談を行っている。毎月、市の介護相談員が来訪され、お客様や職員の相談に対応して頂いている。	ご利用者と近い関係で話ができる、市から派遣される介護相談員を積極的に受け入れられています。またご利用者への対応について他施設での様子を情報として得られるなどの効果がみられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜間時間帯以外は開錠している。職員は身体拘束に関する研修を受け「身体拘束0宣言」を挙げて身体拘束をしないケアを実践している。	施設内での研修では身体の拘束に加えて、スピーチロックを行わないことを目標にされています。徘徊などのケースについては共に活動するなど、行動を抑制しない介護に努められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が高齢者権利擁護等推進の「身体拘束廃止フォーラム」に参加し、後に職員全員に周知し、また「スピーチロック」についての研修会を行った。職員間での意識を高め虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されているお客様が入居されているので、ご意見を伺ったり、FP資格所有の職員が事業所内で勉強会を開催しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様に疑問点や不明な点がないよう説明後に、必ず納得して頂けたか確認し、疑問点をその場でご説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会・面談等、必ずご家族様の意見を反映できる機会を設け、意見を伺いながら施設の運営にいかしている。また年に一度匿名のアンケートを実施し問題をクリアできるように努めている。	入居者の個別に実施される往診の際に、時間が合えばご家族の立ち合いを依頼し、症状を含めた現在の状況や今後の介護方針の共有を図られています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務ミーティングには、なるべく全員出席するように努め、全員の意見を反映できる機会を設けている。またいつでも気軽に意見や相談ができる明るいホーム作りを目指し実践している。	月に1回のミーティングで全体的に意見を共有し、さらに施設長が職員と個別面談を随時行い、個別的な内容の聞き取りをされています。これらの取り組みによりご利用者の情報を共有し病気の早期発見が出来るなどの実績があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を積極的に推進し、ステップアップした職員に対し実施するよう促し、給与面でのサポートを実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修だけでなく、県や市・外部主催の研修や講習を職員が受講できるよう、案内の周知を徹底し、積極的に参加出来る機会を増やしスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沼津市のグループホーム連絡協議会を通じて、他施設の方との交流や意見の交換をしてサービスの質の向上に努めている。また協議会に参加する代表者も管理者だけにせず、CMや他職員も参加して同業者と交流する機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や契約時にご本人の御意見やご要望を傾聴し、入居後も安心して生活出来る様に信頼関係の構築に努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や契約時にご家族様の意見や要望も傾聴し、またご本人とは違った視点での意見も踏まえて、ご家族様も安心して任せられるような関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族様とアセスメントを行い、必要としている支援を見極め、可能な限りできる支援を詳しく説明し、対応をさせて頂いてる。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と共に過ごす時間を大切にして、家庭的な雰囲気の中で随時コミュニケーションを取りながら一人ひとりのペースに合わせ信頼関係の構築に努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に来訪時や電話などで随時利用者様の様子をお伝えし、面会時などでは皆でお話をする等情報共有を行っている。また全ての御家族様宛てにホームからのお便りで月々の様子をお知らせしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のお知り合いや馴染みの方々との面会や外出の支援も積極的に行っています。	入居前に心の拠り所とされていたことを継続できるように、との方針から入所前から通われていた教会やボランティアへ通うな体制を整えるなどの対応をされています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が一緒に楽しめるレクリエーションを日常的に取り入れ、2ユニット合同のイベントも定期的に関催し、コミュニケーションを図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ご本人様・ご家族様の要望に合わせて関係を継続している。ご家族様が差し入れを持参して下さったり、ご本人様の転居先に職員がご面会に伺う事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、個別に寄り添い向き合いながら、ご本人様の願いや思いを傾聴しています。ご家族様からも意見や要望をお聞きして、意向に沿える様に努力している。	ご利用者の話を聞くことを大切にし、レクなどを行わない日を設け、職員がご利用者とゆっくり話が出来る環境を作られています。ご希望を聞き取ることでご利用者の訪れたかったところへ外出を行うなどの支援をされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様からの聞き取りだけでなく、ご家族様にご協力頂き、センター方式B領域に利用者様のこれまでの生活歴や生活環境等を出来る限り詳しく記入して頂き、ケアに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録や日常生活支援シートを元にカンファレンス等で、お客様の暮らしの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリングを随時行っている。内容によっては提携医の主治医に意見を伺ったりして現状に即した介護計画を作成している。	居室担当者を決め、担当となった職員がセンター方式を利用し情報を収集し、カンファレンスにて情報の共有が図られます。ケアプランは職員全体が周知できるように保管場所を決め、職員間で回覧を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に詳しく記録して、特記事項は管理日誌にも記入している。また、職員間でノートを記録し、気づきやささいな発見などを記入し申し送りを大事にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族様の希望を取り入れながら、要望にそった支援を心掛けている。必要に応じて訪問マッサージや家事代行業務(ニチイライフ)との契約など、利用者様・ご家族様のニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会の行事や市の敬老会等のイベントに参加し、運営推進会議を通じて地域の方や自治会との交流を図っている。また、散歩の際地域の方との会話を楽しむなど密着した支援を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご家族様に提携医の説明を行い、ご納得頂けた場合に提携をして頂く。提携医の受診は職員が行い他科の受診はご家族様対応になっている。月に一度、全体往診・個人往診がある。	提携医の往診以外に、希望により他院の受診も可能です。この場合、利用中のご様子を記したシートを発行することで情報提供を行われています。また必要に応じて受診の動向をされます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医の往診が月に2度あるのと、提携医が24時間対応であるの事で、ご利用者様の気付きを随時相談できる。また緊急の場合はそれぞれのユニットリーダーに相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入院時は、ご家族様・医療機関・職員の情報を共有し、早期退院に向けて提携医の地域相談室の医療ソーシャルワーカーとも協力体制を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族様と早期より重度化や終末期に向けての話し合いを行っている。事業所の方針を十分に説明し、ご利用者様やご家族様の意向に沿ったケアが出来る様に取り組んでいる。	看護師など医療職が常駐していないため、看取りは行わない方針をとられていますが介護で対応できる範囲内でご家族と話し合いを行い重度化への対応を工夫したい思いがあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時対応マニュアル」等を活用し、急変や事故発生時に対応できるようにしている。業務ミーティングの際に研修も行い実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、年に2度消防署の指導も受けている。地域防災訓練や津波避難訓練にも参加し地域の協力体制を築いている。	水や食料を3日間の備蓄をされています。避難は隣接している地区の避難所である自治会館を想定されています。さらに散歩や買い物時に気軽に声掛けを行い地域への認知度を上げ、避難の協力を得られやすい環境づくりをされています。	災害対策として地域の協力を得るためには、近隣の方の施設に対する理解が不可欠と考えます。そのために地域の方が施設を気軽に訪れることが出来る仕組みが今以上に発展されることを期待致します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護トレーニングを全職員が実施し、理解を深めている。ご利用者様一人ひとりの状態に合った言葉掛けを意識し、尊厳保持に努めている。	ロールプレイを通じ、個人情報の保護の必要な知識を身につけるためのトレーニングを全社で行います。居室はご利用者が自由に施錠できる鍵が設置され、プライバシーの確保が出来る反面、避難の円滑化の観点では問題点となっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の朝礼時に「お客様の言葉・意志を大切に」のスローガンを唱和し、人格尊重と尊厳維持に努めている。また「香貫山カフェ」と名づけて、飲み物を自由に選んで頂いたり、なるべく思いを尊重出来る様に工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活においてご利用者様に寄り添い、そして傾聴して一人ひとりの意向に沿うよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の個性を尊重し、季節に合わせた洋服や色柄を提案して、楽しく過ごせるよう支援している。また2ヶ月に一度、訪問美容院に来て頂き個人の要望を取り入れたヘアカットをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の出来る範囲で、職員と一緒に食事の準備や盛り付け・片づけを行っている。献立表に拘らず、ご利用者様の好みや意見を尊重し献立をアレンジしている。	献立は本部より提供されるものをベースにご利用者の希望や季節に応じ変更を行い、さらに外食を取り入れるなどの工夫をされています。また施設に庭にある畑で収穫された野菜が食卓にのることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立表に基づき、栄養バランスのとれた食事を提供している。水分摂取量には特に気を使い記録として残し、個人の状態や主治医の指導に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアを行っている。一人ひとりの口腔状態や歯科医師の指導に沿った口腔ケア支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様によって排泄のパターンが違うので、個別で管理・記録を行い、職員が情報を共有出来る様にしている。また、声掛け・誘導・介助を定期的に行い失敗しても大丈夫である事をその都度伝え次につなげていけるように声掛けをしている。	トイレは1フロアに3か所設置され、うち車いすで利用できるトイレは2ヶ所用意されています。1日の時系列で記録する介護記録に排泄の経過を記入することで、ご利用者の排泄パターンを把握し、適時に排泄の声掛けを行うなどの工夫により失禁予防を目指されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事に、果物＋ヨーグルト・牛乳・寒天を積極的に取り入れ、慢性の便秘にならないように努めている。またラジオ体操・歩行訓練・散歩など（個人別に出来る範囲で）を行い、日頃から腸が活発に動くように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日を設定しているが、利用者様の体調や気分等を優先に対応している。熱いお風呂が好きな人は一番風呂に入る等、なるべく利用者の希望が叶うよう傾聴している。	ゆず湯やしょうぶ湯など季節感のある入浴を工夫されています。また、入浴は昼間の実施が基本ですが、ご利用者のご希望により夜間に行うなど、柔軟な運営をされています。	設備的な限界はありますが、重度のご利用者でも快適な入浴が長く継続できる工夫がさらに発展されることを期待致します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡や居室での休息も強制は決してせず、本人の希望に任せている。昼寝をされる方、居室でテレビを見る方、ホールでお話される方、自由な時間を楽しんで頂いる。また、常にベッドメイキングを行い気持ちよく快眠して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が随時確認出来る様に個別に薬の説明書をファイリングしている。投薬変更時は管理日誌で必ず情報を共有し、誤薬防止に努めている。配薬・服薬時は必ず2人以上の職員で行い確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	最低でも月に一度は、その月に関連のある行事のレクレーションを行い、季節や喜びを感じて頂く。また気分転換の支援として、散歩コースの変更や少し距離を伸ばしてみたりと工夫しながら無理の無い程度に楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の要望にお応えし、食べたいものを近場のお店に食べに行ったり、付添い人とご自宅に戻り様子を見に行ったりと願望を叶えられるように支援しています。またご家族様の協力のもと自宅に宿泊や外出も自由に行ってもらっている。	前回外部評価時に行いたいとしていたと遠足は実施出来ており、今後も継続できるよう企画されています。また、近隣のスーパーや食堂などへ定期的に出かけるなどの活動をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣い金をお預かりして、利用者様の希望の買い物が出来る様に支援している。外出時に希望があればご自身でお小遣いを所持し使用出来る様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が自ら電話されたり、職員が取次いだりしながら、希望に応じて電話できるように支援している。手紙や年賀状・暑中見舞いのやり取りも自由に行える様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は毎日清掃し、利用者様の体調に合わせて空調調節を行って、感染症予防の消毒も毎日行っています。玄関やホールには季節の花や飾り付けをして心地良い空間作りに努めています。	ホールやトイレなど共用部はその日の勤務に応じて掃除担当が決まり、毎日掃除と消毒をされています。また雛人形など季節感を感じることが出来る飾りつけを工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のホールや和室で自由にくつろげ、ご利用者様同士がコミュニケーションをとりやすい環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、居室に利用者様の馴染みの家具や物品をお持ちいただいて、思い出の写真やプレゼントを飾り、自宅と同じように過ごして頂けるように配慮している。	仏壇やベッドなど居室のレイアウトや配置するものは、入居前に利用されていたものを引き続きご利用できるよう配慮されています。また、居室担当を決め、毎日の掃除に心掛けられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっていて、通路や階段・トイレに浴室まですべて手すりが付いて安全が確保されている。また歩行訓練として階段の上り下りなど無理の無い程度に行い、自立を促している。		